

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

進捗評価実施要領(P.1)について	
意見提出者:澤田委員	回答
3段階の評価になっているが、AとBの間の状況が多いと感じるので、「徐々に進んでいる」といった評価を入れてはどうか。	ご意見のとおり、より正確な評価結果とするため「B 進んでいる」を加え、「B」を「C」とし、「C」を「D」に改めます。

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第1号 ◎成果目標1『福祉施設の入所者の地域生活への移行』について	
意見提出者:澤田委員	回答
現在は地域移行できた人数のみ目標としているが、ニーズは(本人の意思を確認したら)もっと多いはずである。そのため、地域移行支援の件数や相談支援者のスキルに関わってくる。地域移行支援を行う事業所を増やすことも目標にいれてはどうか。又、地域移行支援の利用者数も目標に入れてはどうか。	当目標は、計画本編の成果目標と同様であり、内容を変更することはできません。実際の評価時には、様式に入れることができなかった内容についても、関連するものは報告したいと考えています。

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第2号 ◎成果目標2『地域生活支援拠点等有する機能の充実』について	
意見提出者:植戸委員	回答
「機能の充実を図る」だけでは、その成果を評価するのは難しいと思う。具体的な数値(例えば緊急SSの受入件数や、「親亡き後」体制をつくれた事例の数など)を設定できないか。少なくとも、市だけで評価するのではなく、基幹相談支援センターによる評価と併記するなど、より客観的な評価ができると良い。	年度毎に違う視点での目標設定が必要であり、様式として整理することが困難であると考えています。そのため、各年度の実施状況において5つの機能の整理を行い、数値化できるものは数値化したうえで本市の評価を実施していきたいと考えています。 また、基幹相談支援センターによる評価については、年度毎に提出のある「委託事業実施報告書」を基に本市の評価を実施することで、客観性も確保できるように努めます。
意見提出者:澤田委員	
目標が大ざっぱな気がする。計画の中で、当事者にとっては最も重要な項目である。5つある機能の中で、重度の障がいがある人にとって、①「親元からの自立等にかかる相談」、②「グループホームへの入居等の体験の機会及び場の提供」、③「短期入所の利便性・対応力の向上等による緊急時の受入対応体制の確保」はまだまだ不十分な状態である。中でも②を充実させることにより、他の項目もスムーズになると思われるので、②の整備を重点目標にあげてはどうか。	
意見提出者:竹内委員	
何をもって機能の充実とするのか、今の課題から目指す姿が具体化されていないと評価ができない。	

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第3号 ◎成果目標3『福祉施設から一般就労への移行等』について	
意見提出者:澤田委員	回答
就労に対する世の中の動きも、障がいのある人にとって良い方向に向かっており、加古川市は事業所の尽力もあり、就労支援については安心と信頼のある地域だと思う。	貴重なご意見ありがとうございます。
意見提出者:竹内委員	回答
1 ①の1行目「58人/年」が必要である。 2 ②の目標が理解しにくい。また、分母が二重になっている表現で理解しにくい。	1 「 /年」については、ご意見のとおり追加します。 2 ②については、事業所数の増減等により定員数が変動する可能性があることから現在の表記としていますが、実際に評価していただく際には評価時点の定員数を精査したうえで報告させていただきます。
意見提出者:中嶋委員	回答
①の目標について、単年での目標という認識でよいのか。 また、目標となる人数は、加古川市の事業所からの移行者数なのか、加古川市が支給決定した人数からの移行者数か。 ②・③について、就労定着支援を利用している方は市外在住の利用者もいるが、その辺りの考え方はどうか。	ご認識のとおりです。 目標となる人数については、本市が支給決定した者の内となるため、他市の事業所を利用し一般就労移行した人数も含まれます。 ②の目標数値については、事業所数や定員数によって変動が生じるため、各年度の実施状況において整理していきたいと考えています。 ③については、本市が支給決定した方の就労定着率を事業所ごとに精査し、割合を算定します。

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第4号 ◎成果目標4『障がい児支援の提供体制の整備等』について	
意見提出者:植戸委員	回答
①「連携を図る」や④「環境づくりを行う」は客観的な評価がしにくいように思う。何か客観性のある数字が設定できないか。少なくとも、市だけで評価するのではなく、関係機関による評価も含めると良い。	様式としてすべてを数値化することは困難であるため、各年度の実施状況において、できるものは数値化したうえで本市の評価を実施していきたいと考えています。 また、連携した関係機関による評価方法については、連携方法も含めて検討を行い、評価時には実施状況を報告をさせていただきます。
意見提出者:竹内委員	
何をもって評価するのか、現在の課題が具体化されている必要がある。	
意見提出者:澤田委員	回答
母子が最も不安で支援の必要な時期であるため、早急に取り組んでいたきたい。	貴重なご意見ありがとうございます。

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第5号 ◎成果目標5『相談支援体制の充実・強化等』について	
意見提出者:植戸委員	回答
他と同様に、「充実させる」だけでは評価が難しい。基幹相談支援センター等の評価・意見も取り入れた評価が望ましい。	様式としてすべてを数値化することは困難であるため、各年度の実施状況において、できるものは数値化したうえで本市の評価を実施していきたいと考えています。 また、基幹相談支援センターによる評価については、年度毎に提出のある「委託事業実施報告書」を基に本市の評価を実施することで、客観性も確保できるように努めます。
意見提出者:澤田委員	回答
熟練した相談支援者のスキルを次につないでいけるよう、課題解決の過程を学んだり共有できる研修会をもっていただきたい。高齢の相談員さんもたくさんの利用者を受け持たれている。利用者は相談員さんを頼りにしている。安心できる相談支援体制をつくっていただくようお願いしたい。	貴重なご意見ありがとうございます。進捗評価を実施するうえでの参考とさせていただきます。
意見提出者:竹内委員	回答
既存のセンターの機能の充実なのか、別のものなのか。 別のものであれば、機能の違いについて説明が付記されているとイメージしやすいと感じる。	既存のセンターの機能の充実を指します。

第5回加古川市障害者施策推進協議会
意見回答票

様式第6号 ◎成果目標6『障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築』について	
意見提出者:植戸委員	回答
事業所への説明会は大変良い。ただ、「説明会に参加してくれたか」「説明会で市側の意図は理解されたか」「事業者のサービスの質が向上したか」という成果(out come)までも見ていくことが望まれる。	年度毎に取組方法等について検討を行っていきたいと考えており、評価時には実施状況や成果について報告させていただきます。
意見提出者:澤田委員	
説明会の実施のみをあげられているが、好事例の共有等、モデルとなる事業所の具体的な発表があれば、他の事業所の意欲につながると思うがどうか。	回答
意見提出者:竹内委員	
説明会の実施は、実施評価であり成果評価ではないように思う。(これまでの評価とはレベルが違うので、「説明会実施により〇〇」と目指す姿を表現したほうがよい。	目標欄の表現を改めます。